

## シーラーのトップメーカー富士インパルス株式会社の見学と 山田社長の講演～第10回ATAC社長懇話会の記録～

平成15年に始めた社長懇話会も今回で節目の10回目を数えるまでになりました。

平成19年11月20日、企業経営者13名の参加を得てプラスチック・シーラーのトップメーカー富士インパルス株の本社工場(豊中市)を見学した後、山田邦雄社長の講演をいただきました。

### ▼会社の概況

当社は1956年に硬質塩化ビニールを溶接するための「ホットジェット溶接機」を世界で始めて商品化し、1960年にはプラスチックフィルムの袋を急速加熱して封着する「インパルス式シーラー」を開発して販売を開始した企業です。本社工場、徳島県の三好工場のほか、中国、ベトナムにも進出しています。従業員合計100名、年商18億円(平成17年10月期)、国内シェア50～60%というシーラー業界のリーディングカンパニーです。

### ▼本社工場の見学

山田社長から工場概況の説明を受けた後、見学に移りました。

ショールームには、食品封着用を始め、最近の電子部品封着用など、当社がこれまでに製造してきた代表機種が展示されていました。世界標準になった当初の簡単な卓上型の手動機から、足踏み式の自動機、袋を真空脱気して窒素ガスを封入して封着する機種や、3mまで封着できる大型機、クリーンルーム内で使用する半導体部品を封着する機種などが並べられており、展示だけでなく、ユーザーの試用試験も行われていました。

組立室では数基を組立て中でした。汎用機は三好工場や海外工場に任せ、この本社工場では特殊仕様機を月に25基程度組立てており、売上高の30%を占めています。



部品室では、シーラーの心臓部である板状の耐熱合金製ヒーターとそれをカバーする耐熱樹脂の在庫を見ました。ヒーターは数万回の使用に耐えますが、寿命が来るとユーザーで取替え、ここから消耗部品として補充しています。

製品開発では、3次元CADが並んだ設計室、試作室、各種材料試験装置などが整備されています。

### ▼山田社長の講演

山田社長に「当社の歴史、現在、そして未来」という題で講演を頂きました。

先代の創業者山田哲三氏がプラスチック時代の到来を迎えて「ホットジェット溶接機」、続いて「インパルス式シーラー」の独自開発を進められ、「お客様のことを考えればいい加減なものには作れない」「良いものを作れば必ず売れる」との信念で仕事をされた話や、1秒間で封着温度に達するシーラーのヒーター温度を精密に制御するために極細の熱電対を使った「オンパル温度制御法」を社長自ら開発されたこと、また1985年に先代が死去されて30歳台半ばで急遽社長に就任された時の不安と大阪科学技術センターの社長の異業種交流会「MATE研究会」に参加し、アドバイスがもらえて心強かったことなど、興味が尽きない話でした。

総括として、「使う人の身になったものづくり」「誠意、そして情熱」「社会への貢献」などと並んで創業以来の「模倣は絶対にしない。どこまでも自社技術」との方針の基にオンリーワン企業を目指しているという言葉には胸を打たれました。

### ▼懇親会

このあと懇親会に移り、参加者と富士インパルス幹部、参加者同士の話が活発に交わされていました。

主催者としては、今回もまた参加いただいた経営者の方々にお役に立つ情報を提供できたものと自負しています。(池田・吉田記)

